

2 初発の感想から 課題を見つけるため の 手引き

一人学びの手引き（初発の感想～課題へ）【物語文】

1 導入

教師側のおさえ

- ・単元でつけたい力を明確にしておく。指導事項を選択する。

Cf.学習指導要領、授業づくり指針

→どんな言語活動が合うか選択。（つけたい力にふさわしい活動は何か。）

- ・子どもたちに見通しを持たせる。（このお話で、どんなことを学ぶか。）

→単元に合った導入の工夫をする。挿絵や絵本の活用をしたり（低学年）、シリーズものの紹介（ブックトーク）をしたりするなど。

2 範読

- ・教師の範読、音読CDの活用等

3 あらすじをおさえる

紹介→起→承→転→結のおさえをする（挿絵を活用）。

→場面のとらえ、山場をつかむことにつながる。

中心人物が
事件によって
変容する話

のように教科書の言葉を使って、まとめることができるようにさせる。

ただし、低学年は、短くまとめるのは難しい面もあるので、

紹介
起きかけ
展開
転山場
結末

とまとめるのもよい。（※詳しくは、スイミーでの実践で）

学年や子どもの実態に応じて、一斉や個々に取り組む。

ステップ1 教師が説明しながら、全体で一緒にあらすじをおさえる。

（あらすじとは何か、起承転結の意味など）

ステップ2 教師が支援しながら（入れる言葉など）、子どもが個々にあらすじをまとめる。

ステップ3 子どもが型に沿って、自分の力であらすじをまとめる。

☆目指すところ☆

- ・あらすじを自分の言葉でまとめることができる。
- ・話の山場がとらえられるようになる。

4 感想

感想を書くときの視点を与えて書くようにさせる。

《視点》①心に残ったところ

②主人公についてどう思うか

③疑問に思ったところ（不思議に思ったところ）

◆語彙を増やすために、各学年の教科書に載っている気持ち（わくわく、ドキドキなど）や様子を表す言葉を提示して、子どもが積極的に使っていくことができるようにする。

◆感想を書く方法

・ノートへ視点ごとに箇条書き ・付箋を使って色分け ・

具体的な教材を使って… ～2年生『スイミー』～

単元名：お話を読んで、かんそうを書こう （読む）

教材：「スイミー」

1 導入

2年生では、作者や絵描きに注目させた。→外国のお話である。

絵本の活用（挿絵）もした。（導入ではなく内容に入ってから）

2 範読

3 あらすじをおさえる

簡単なあらすじをおさえる。（挿絵に注目させるのもよい。）

中心人物が
事件によって
変容する話

…とまとめてみたが、
子どもには難しいのでは？
高学年はできそうか。

紹介 真っ黒で泳ぐのが速いスイミーは、
起 仲間を食べたまぐろからにげ
承 海にあるすばらしいものに出会い
転 出会った小さな魚の兄弟を説得して（みんなで1つの魚になることを提案し）
結 アイディアを出して大きな魚を追い出した

◎あらすじをおさえる中で、起承転結がわかるようにしていく。教科書の言葉を使ってまとめさせたい。

4 感想を書く

今回は、付箋を使って行った。付箋を使うと、色分けできて、どの場面に感想が集まっているか分かりやすい。

視点：①心に残ったこと ②主人公についてどう思うか ③ふしぎに思ったこと
(2年生で実践の視点)

①の視点○いろんな場面を選んで書くことができる。

●範囲が広くなり、書きにくい子どもがいるのでは？

②の視点○主人公に迫ることができる。

③の視点○低学年の子どもは、書きやすい。

●本文からは、解決できない感想が出てくる。(例：スイミーはどうしてまっくらなのか。)

◎感想を書かせるときの視点は、子どもが書きやすい視点を入れる、課題へつながる視点を入れることが大切。

5 課題へつなげる

○子どもから出てきた感想をグループ化していく。

→子どもの感想をめあての横に掲示して、授業の中で考えていくようにする。

- ・すぐに解決できそうな疑問は、その場で考える。
- ・同じ場面ごとに、登場人物ごとにグループ化する。

○教師側が考えさせたい課題を考える。

〈考えてみた課題〉

- ・おそろしいまぐろからにげたスイミーの気持ちを考えよう
- ・まぐろに仲間が食べられて一人残ったとき、どんな気持ちだっただろう
- ・すばらしいものを見たスイミーの気持ちは、どのように変わったか考えよう
- ・海の中でいろいろなものに出会って、スイミーはどんなことを思っただろう
- ・前の場面で悲しんでいた主人公が、今の場面で元気を取り戻したのはなぜだろう
- ・赤い魚たちを岩かげから出そうとしたスイミーは、どんなことを考えただろう
- ・赤い魚たちを岩かげから出すために、どんなことを考えただろう
- ・「スイミーは考えた。…うんと考えた。」とき、どんなことをスイミーは思っただろう
- ・「ぼくが目になろう」と言ったスイミーの気持ちを考えよう
- ・大きな魚みたいに泳ぐことができるようになったとき、スイミーはどんな気持ちだっただろう
- ・自分より大きなものを追い出そうとした主人公をどう思うか。また、何と言ってあげたいか。

『～（の）スイミーにどんなことを言ってあげたいことを考えよう』

（～の部分は、各場面でスイミーがしたことが入る）

起 まぐろからにげた

承 海にあるすばらしいものに出会った

転 小さな魚の兄弟を説得しようとする

結 アイディアを出して大きな魚を追い出した

あらすじをまとめる活動
で出た言葉を当てはめる。

→このめあてで考えていくと、主人公スイミーのしたこと（言ったこと）に注目することができ、気持ちを考えさせることができる。場面ごとにめあてが大きく変わらず、子どもたちも取り組みやすい。気持ちの変化もとらえやすい。

◎低学年は、子どもから出てきた感想と教師が考えさせたい課題を合わせていく。